

愛野地域審議会

提言書

平成21年8月19日

はじめに

雲仙市が誕生して、4年が過ぎようとしておりますが、雲仙市総合計画に掲げられております市の将来像と施策に基づき、雲仙市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち愛野地域審議会委員15人は、平成19年7月に市長から委嘱を受け、第2期愛野地域審議会として活動を開始しました。市の総合計画や地域振興計画、委員としての所管事務等について研修し、その責任を深く認識する中で、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる。」を根拠として、市内全地域が等しく発展することを目指して、地域の課題を探り、提言書としてまとめ、市長に提言することを決定しました。

以来、定例会議を7回と臨時会議を2回開催し、様々な地域課題の一つひとつを市民の目線でしっかりと見つめ、現状と課題やその解決策について審議を重ね、このほど提言書としてまとめることができました。

本来、審議会としての提言は、中長期的な視点に立ってまとめるべきであると考えますが、現状を少しでも早く改善する必要がある事業、また、新規に実施していただきたい事業等があり、ここに本審議会として提言いたします。

平成21年8月19日

雲仙市長 奥村 慎太郎 様

愛野地域審議会会長 松浦末利

目 次

ページ

1 . 産業の振興、環境整備について	
(1) 農業の振興	1
(2) 観光業の振興	
() 観光資源を活用した観光振興について	1
() 交通の要衝であるという本地域の特質の 活用策について	2
(3) 商業の振興	2
(4) 愛野地域を中心とした開発	3
2 . 参加・協力が可能な「まちづくり」活動	
(1) 環境を大切にしたい住みよい、愛される地域づくり	
() 子育てしやすい環境づくり	3
() 環境美化活動について	4
(2) コミュニティ活動の推進	4
3 . 合併後の市政、全市にかかわる提言について	
(1) 道路環境の整備	5
(2) 河川の整備	5

愛野地域審議会提言書

1. 産業の振興、環境整備について

(1) 農業の振興

現状と課題

本地域は、農業を中心とした第一次産業が基幹産業である。主要農作物であるジャガイモは、雲仙ブランドとして知名度が高く、付加価値があることから農家収益の向上に繋がっていると考えられる。

農業の実態としては、農業資材費等の経費がかさみ、減収農家が増加し、休耕田や荒地の増加、田畑等の宅地への転用が急激に進み、農地は虫食い状態となっている。また、農業の課題としては、農業従事者の高齢化や後継者不足、農業所得の減少、農業の離農や廃業、規模縮小農家の増大、農地の基盤整備や灌水対策など山積している状況であり、本地域の農業の在り方について再検討する時期が来ているのではないか。

解決策

豊富な食材を安定供給する産業体制、所得増大対策等の本地域の農業振興策を早急に示し、市として次の事業を行い、支援する。

土地利用型農業から施設利用型農業への移行、施設園芸に対する支援
圃場整備による区画整理（農地と住宅の区分）、農地の集積、灌水施設整備
小規模農家への支援及び制度づくり
休耕田や荒地対策として、農地貸借制度のPRや農業体験のできる観光農園を整備し、体験型農業を推進する。

(2) 観光業の振興

() 観光資源を活用した観光振興について

現状と課題

本地域には、千々石断層及びその崖下を通る雲仙鉄道跡（愛野～小浜間、昭和13年に解散）、橘湾等の愛野展望所からの素晴らしい眺望、国道251号沿線の首塚、坂本竜馬ゆかりの地である愛津村庄屋跡（深浦家屋敷）等の名所、旧跡等の観光資源が点在するが、これらの観光資源を活用した観光業の振興策を探るべきではないか。

解決策

本地域の観光資源を活用した観光振興策として、市として次の事業を行い、支援する。

本地域の名所、旧跡等を市の観光資源として位置づけ、街歩きのできる観光スポットとして観光マップやパンフレット等により紹介し、旅行代理店等を通じて観光客にPRすると共に、各観光スポットの周辺には駐車場や休憩所等の施設を整備し、観光客の誘客に繋げる。
雲仙鉄道跡等を自転車で散策するためのサイクリングロードを設定すると共に、貸し自転車（30台）を設置し、観光客の誘客に繋げる。

() 交通の要衝であるという本地域の特質の活用策について

現状と課題

本地域は交通の要衝であり、また、食材供給基地である島原半島と長崎市や諫早市、大村市等の大規模消費地を結ぶ結節点である。この本地域の特質を最大限に活かす方策はないか。

解決策

交通の要衝であるという本地域の特質を最大限に活用した産業振興策として、市として次の事業を行い、支援する。

「道の駅（物産販売所）」の整備

（本地域の特産品等の販売拠点として、また、ネット販売拠点として、市内産木材を活用した「道の駅」を展望台付近の市有地に整備し、愛野ジャガイモ等の農産物やスイーツ等の特産品の試食やパンフレットを配付するなどPRを行い、快適な休憩と新鮮さを併せ持った質の高いサービスを提供し、観光客の誘客に繋げる。また、地元商店等の「道の駅」管理運営への参画や地元商品等販売コーナーの開設により、消費拡大、安定経営に繋げる。また、「道の駅」を、食品加工、出荷、販売、新たな雇用の場の創出、高齢者の生甲斐対策の場となるよう位置づける。）

流通センター（青果市場）等整備

(3) 商業の振興

現状と課題

県営バス撤退後、島鉄バスの島鉄愛野駅への乗り入れにより、鉄道・バスとも乗降客は大幅に増えているが、大規模商業施設の本地域郊外への進出等が相次ぎ、個人商店の多くは経営努力を行ったにもかかわらず、移転や廃業を余儀なくされ、その対策は急務である。

解決策

食料品や日用品等を販売し、高齢者や地域住民にとって便利な小店等の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

商店や小店等を古風な景観に整備すると共にマップを作成し、インターネット販売を推進する。

「道の駅」を活用した小店等の参画

(4) 愛野地域を中心とした開発

現状と課題

本地域は、島原半島の玄関口であり、また、長崎市や諫早市、島原半島各市の結節点でもあること等から交通の要衝となっている。しかし、公共交通機関としては、一部県営バスが運行されている他は島原鉄道及び島鉄バスしか運行されていない。また、これらの公共交通機関も近年、利用者の減少等で路線廃止や減便等を余儀なくされ、地域住民にとっては大変不便な状況になっている。また、本地域では、住宅等の建物や人口が増加傾向にあり、事故や災害等が多発する危険性も出てきている。

このような状況の中で、本地域は、市の中心地域に位置することから、今後、その役割をどのように果たしていくかが課題となり、その対策が急務である。

次に、市民の文化事業に対する関心度は、国や県のそれと比較して低いと感じられる。昨今の厳しい社会情勢に鑑み、地域住民の心にゆとりをもたらし、次世代を担う子どもたちの情操教育にも全力を注ぐ必要があると考えるが、文化ホール等の市の施設が身近にないことから、地域住民のほとんどが利用しにくい状況にある。

解決策

本地域の開発としては、国道や高規格道路、市道等の道路・交通環境の整備充実や、事故・災害等に強いまちづくり、心豊かな、ゆとりある生活の創出と文化意識の高揚を目指して、市として次の事業を行い、支援する。

地域高規格道路島原道路愛野インターチェンジ（仮称）付近の開発による人口増加策

島鉄愛野駅周辺にバスや鉄道を一極集中させた交通システムの構築

愛野駅下及び宮添地区の住宅団地開発

事故や災害に強い都市づくり

既存施設を有効活用した図書館機能の整備・充実

市民及び芸術家が気軽に参加、出展できる文化センター（仮称）の整備

総合運動公園の整備

（公認スポーツ施設、児童公園施設として、また、防災上の緊急避難先として、利用し易い環境の整備や、幼児から高齢者まで安心して遊び、憩える公園（遊具等）の整備を目的に、施設の整備、充実を図り、市内外から利用者を増やす。）

2. 参加・協力が可能な「まちづくり」活動

(1) 環境を大切にしたい住みよい、愛される地域づくり

() 子育てし易い環境づくり

現状と課題

本地域は、交通の要衝であり、地の利が良いことから宅地造成が急激に進み、新興住宅や人口が増えているが、それらに呼応した子育て環境の整備は進んでいないのではないかと。

解決策

本地域の子育て環境の改善策として、子育てし易い環境の整備や住み易い環境の整備を進めるために、官公庁や小・中学校、幼稚園、保育所等関係機関相互の連携強化を図り、誰もがパソコン等の画面を見ながら市の子育て情報を入手できるように窓口を一本化するなど、質の高い子育て情報の共有化と提供を行い、支援する。

() 環境美化活動について

現状と課題

本地域は、交通の要衝であり、本地域を經由して雲仙や小浜等の観光地を訪れる人が増えている。しかし、路上にはゴミが散乱し、雑草等が目につく。全地域住民による環境美化活動を行う必要がある。

解決策

本地域住民の環境美化意識の高揚を目的に、行政と自治会、地域住民等の協働による環境美化活動を推進し、市として次の事業を行い、支援する。

「一つ拾えば、一つきれいになる」等の標語や環境美化大賞を設置し、環境美化意識の高揚、啓発活動を実施する。

住民参加型の河川や道路、ゴミステーションの清掃等、環境美化活動を実施する。

(2) コミュニティ活動の推進

現状と課題

本地域では、新興住宅や賃貸アパートの増加と相まって、他地域から親子で移住する家族が増えている。しかし、地域に馴染めない子どもたちが増加傾向にあり、その対策が必要ではないか。

解決策

本地域の地域に馴染めない子どもたちの環境改善策として、地域で子どもたちを見守る体制づくりやコミュニティづくりの確立を目指して、市として次の事業を行い、支援する。

自治会や学校、幼稚園、保育園、社会福祉協議会、婦人会等の子どもたちを取り巻く関係団体が連携協力し、子育て支援や関係団体の活動を通して、地域住民と子どもたちの交流活動を活発化させ、親同士、子ども同士がお互い顔を知る機会をつくり、併せて自治会加入の必要性について理解を促すよい機会とする。

3. 合併後の市政、全市にかかわる提言について

(1) 道路環境の整備

現状と課題

本地域は交通の要衝であるにもかかわらず、道路整備が遅れている。早急に整備する必要があるのではないか。

解決策

本地域の物流拠点としての機能を更に高め、流入人口や定住人口の増加に繋げることを目的に、市の農林水産商工業や観光業を担う産業道路としての道路環境の整備について、国、県、市連携による長・中・短期的な整備計画立案と早期実現を目指し、次の事業を行い、支援する。

諫早尾崎～雲仙愛野間の地域高規格道路島原道路の早期着工

諫早森山～雲仙愛野間の愛野森山バイパスの早期完成

国道251号～グリーンロード間の市道の早期完成

愛野運動公園へのアクセス道路の整備

(市道から国道57号への連結。H26年度開催予定の長崎国体サッカー、陸上競技会場としての整備に伴う愛野運動公園の機能の一体化と充実)

国道251号愛野交差点付近の道路拡張整備(JA島原雲仙愛野支店前)

国道57号沿線歩道の整備(JASS～愛野展望台までの未整備区間)

(2) 河川の整備

現状と課題

今木場川をはじめ本地域の河川には土砂の堆積が著しく、雑草は繁茂し、空き缶やゴミ等が散乱している状況である。空き缶やゴミ等の除去は地域住民でもできるが、川底へ降りる階段もなく、土砂の浚渫や雑草の除去等については行政で対応できないか。

解決策

本地域の河川の管理を行うために、市として次の事業を行い、支援する。

土砂の浚渫や雑草の除去等、本地域の河川の管理は、国、県、市が定期的に行う。

川底へ降りることができる階段を、整備する。

上記 実施後の河川の清掃等は、行政、自治会、地域住民が協働して行う。